

会 議 要 旨

会 議 名	令和3年度第1回 館山市地域公共交通会議
開 催 日	令和3年5月19日(水)午後2時~午後3時30分
開 催 場 所	館山市コミュニティセンター 1階展示ホール
出 席 者	[委 員]合計25名(欠席 5名) 別紙一覧表のとおり [館山市]合計3名(総合政策部長・企画課副課長・同係員)
公開・非公開の別	公 開
傍 聴 人 数	1名(定員10名)
議 事	<p>【議 事】</p> <p>(1) 令和2年度市街地循環バス実証運行の結果について(報告事項)</p> <p>(2) 令和3年度市街地循環バス実証運行の計画について(協議事項)</p> <p>(3) 館山市公共交通事業者補助金 補助事業の内容について(報告事項)</p> <p>【その他】</p> <p>・出席委員からの情報提供等</p>
会 議 内 容	<p>開会</p> <p>会長あいさつ</p> <p>今年度新たに就任した委員の紹介</p> <p>議事</p> <p>(1) 令和2年度市街地循環バス実証運行の結果について(報告事項)</p> <p>・事務局から配布した「資料1」を用い、運行概要や期間中の利用者数、アンケート集計結果等について報告した。</p> <p>【質疑・意見等】</p> <p>・特になし。</p> <p>(2) 令和3年度市街地循環バス実証運行の計画について(協議事項)</p> <p>・事務局から配布した「資料2~資料2-3」を用い、令和3年度の市街地循環バス実証運行について、主に以下の内容等について説明し審議した。</p> <p>実施目的や趣旨を説明。令和2年度実証運行については、ほぼ全期間が新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言下となったことや、実証運行期間中に利用者意見が多数寄せられ、課題が浮き彫りになったことから、課題を改善しながら外出促進を図るため、令和3年度も実証運行を行い、本格運行の必要性を再検討する。</p> <p>運行期間について説明。8月~11月の4か月間を予定している。</p> <p>令和2年度からの主な変更点を説明。</p>

- ・北ルートと南ルートの「8の字型直通運行」の実施検討
 - ・時計回り・反時計回りの両方運行は行わず、片回りのみの運行とする
 - ・南ルートに長須賀や城山公園を追加する
 - ・北ルートは業務スーパー周辺に停車する
他に変更を検討している点を説明。
 - ・フリーパスの導入
 - ・PayPay等キャッシュレス決済の導入
 - ・千葉工業大学と連携し、時刻表やルート図、停留所表示などのデザインをよりよいものとし、分かりやすさや訴求効果のアップを狙う
- 運行事業者について説明。受託者は公募型プロポーザル方式により選定。5月13日に実施した審査会を経て、ジェイアールバス関東と日東交通が運行することとなった。
- 目標について説明。周知を強化し、市民の信頼を獲得することで昨年度よりも多くご利用いただくことを令和3年度の目標とし、本格運行に向けては、利用者数や利用者意見の内容等を踏まえ総合的に判断し検討する予定である。
- 今後のスケジュールについて説明。この先、警察や道路管理者、バス停設置予定箇所の管理者（所有者）と協議し、バス停設置箇所を確定させ、早急に国に認可申請を提出する。
- 運賃について説明。運賃額や割引制度はまだ決まっていないが、200円以下で実施したいと考えている。
- ・審議の結果、提出した運行計画案について了承され、運賃等未確定部分が決まり次第、速やかにその結果を報告することとされた。

【質疑・意見等】

(室委員)

- ・令和2年度の実証運行期間中、高齢者とともに2回バスを利用し、色々な意見が出てきた。
- ・資料1の18ページに、今後の利用意向を聞いたアンケート結果が記載されているが、この設問だと利用しないという選択肢は書きづらく、大半が今後利用するという回答となっている。しかし、その中には、すぐにでも利用したい、この先必要になれば利用する、など様々な内容が含まれていると思う。そのあたりがもっと分かるようにアンケートの設問を工夫し、詳細を把握できるようになればと感じた。
- ・令和3年度実証運行では、本数が令和2年度と比べ約半数となるが、昼間の運行間隔が2時間くらい空いてしまうと時間がつぶせないということもあるので、調整をお願いしたい。
- ・前回の実証運行では収支率目標20%ということだったが、今回は本数を減らし、運行期間が延びているので、かかる費用が一緒なら同じくらいになるかと思うが、目標設定についてどのように考えているか。収支率だと分かりづらいかもしいないので、目標は1便何人くらいなどと示すことは可能か。

(事務局)

- ・アンケートについては、いただいたご意見を参考に設問を工夫したいと思う。
- ・運行間隔については、これから運行事業者と調整するが、実際にアンケートでも昼の運行間隔が空いてしまい不便といった声が市に対しても多く寄せられた。乗務員の休憩を設定する必要などもあるため、事業者と調整し、なるべく利便性が低下しないようなダイヤ設定としていきたい。
- ・目標については、前回予想を大きく下回ったこともあり、今年度どのくらいの利用があるかは事務局としても見当がつかない。あくまでも一例になってしまうが、前回は1便当たりの乗車人数が1.4人だったので、今回はその約2倍の3人程度といったところで見たいと考えている。

(鈴木会長)

- ・室委員の質問の3点目、目標設定について、轟委員の方でご意見やコメント等はあるか。

(轟委員)

- ・収支率目標の設定については非常に難しい。政治判断もある。
 - ・今回、費用面、バスの台数等がどうなるのか分からないが、費用を抑えて収支率を上げることも可能。
 - ・コストをいかに抑えながらいかにサービスをより良いものにしていくかがポイント。
 - ・収支率の目標設定は難しいのだが、持続可能であるためにはある程度の収支率を求めていくことが必要と考えている。20%くらいないとつらいかと思う。
 - ・今回の実証運行の結果数値はコロナ禍であるということが重要なポイントと考えており、令和2年度の運行では、館山市への観光客が少ない中、資料1の16ページにあるとおり、観光目的がコロナ禍でも多かった。これが館山の特徴と思うが、コロナ禍でもこれだけの利用があるということは、ポストコロナを考えれば、もっと利用者が多くなる可能性もある。
 - ・そういった意味では、PRや周知をしっかりと行う際のポイントとして、住民だけではなく観光客にも訴求することが重要と考えている。それによって、利用者数を増やせて、収支率を上げられるのではと思って見ていたところ。
 - ・キャッシュレスやフリーパスは有効。フリーパスに関連して回数券の販売を考えても良いと考える。回数券はリピーター増加につながる。リピーターを増やすことが必要と感じた。
 - ・運賃は200円で良いと考えているが、数区間程度の短い区間を利用するニーズがあるのなら、短区間利用を割引することも考えられる。あとは料金収受がスムーズにできるかどうか。ICカードであれば割引運賃の設定ができるのだが。
- (事務局)
- ・主な目的は地元住民の買物利用に、と考えているが、外から来る方のご利用、今回は城山公園を追加する予定なので、そういったところを訴求していければと考えている。
 - ・PRに当たっては、千葉工業大学に協力いただくことになっているので、内容をブラッシュアップさせられればと考えている。

- ・回数券・フリーパスは多くの方からご意見、ご要望をいただいているところ。
- ・短区間利用で200円は高いという声もいただいているので、運行事業者と工夫して設定したいと考えている。
- ・なお、運行事業者からは、既存路線バスからの乗継割引導入を提案いただいているところである。

(鈴木会長)

- ・今回の実証運行は8月から4か月の実施を考えているが、ワクチン接種で少しでもコロナ収束に向かった中で、効果的なPRを行い利用増につなげたいと考えている。

(室委員)

- ・せっかくの循環バスなので、高齢者は乗るときに複数の場所に行きたいと考えるが、何回も乗るとお金の出し入れも面倒になると聞いた。安くなればなるほどいろいろなところで乗り降りできる。できれば100円にして、何回も乗れる方が乗りやすいと感じた。
- ・轟委員の話にもあったが、コストを抑えながらよりよいサービスを提供するというのを考えていた。例えば、毎日バスを利用する人は少ないと思う。実証運行の後の話になるかもしれないが、必ずしも毎日運行しなくても良いのではないか。何曜日に運行と決まっていれば、それに合わせて買物に行くことができる。運行時間帯を短くするという形ではなく運行する曜日を減らすという考え方もあると思う。
- ・令和2年度実証運行期間中、西岬・神戸から乗ったが、高齢者が買物に行く際、館山駅で乗り換えが必要になる。乗り継ぎが無い方が良いかという声もあった。半分観光気分で買い物もするという乗り方ができるといいと思う。車がない方も楽しく乗れるという考え方も大切だと感じた。
- ・乗継の時間も工夫してもらえればと思った。神戸から来た際、15分の乗り継ぎ時間があったが、路線バスが遅れてぎりぎりになってしまったこともあった。館山駅に向かうバスとの乗継時間も考えてほしい。
- ・若い人だとなかなかぴんと来ないかもしれないが、自分が車を持っていない前提で1日かけて乗ってみるといろいろ見えてくると思う。委員の皆さんを含め、市職員にも積極的に乗ってもらって、考えたことをレポートにして出してもらったらいいのではないか。

(事務局)

- ・料金面については、もう少し検討させていただきたい。100円という意見も多数いただいているので参考にさせていただきたい。
- ・運行日の件については、本格運行の際の論点になると考えている。今回の実証で利用の多い曜日等が見えてくると思うので、色々な考え方の一つとして検討していくべきと考えている。
- ・乗継については、前回実証運行で各路線のダイヤを見たのだが、8路線プラス内房線が乗り入れているため、大変厳しい。どこかを優先するとどこかが立たなくなる。なるべく、という言い方しかできないが、各路線からスムーズに乗継ができるような時刻設定を運行事業者とともに研究していきたい。
- ・市職員向けPRについては、前は緊急事態宣言下ということもありなかなか周

知ができなかったが、今回は休日の買物や子どもと一緒に使ってもらうなどの提案をしていければと考えている。

(鈴木正一委員)

- ・乗継についてのニーズ把握は行ったのか。
- ・郊外部には行き届かず、なかなか出かけられないということもある。今回新たなルート案などを考えるのであれば、何便かは豊房や神戸に来るとか、郊外部不便さを緩和する策が必要と考えるが、そのあたりに関する見解を伺いたい。

(事務局)

- ・乗継については今回のアンケートでは明確に聞いていなかった。今回、大半が北条地区・館山地区在住者(沿道区間)のご利用だったという点を踏まえると、人口の差もあるため一概には言えないが、絶対数としては乗継需要は多くなかったともいえる。
- ・豊房・神戸まで乗り入れてほしいといった要望はいただいているが、考え方として、どのように郊外部と中心部をつないでいくかという話になってくる。循環バスの運行エリアを広げるのか、市街地を巡るバスと郊外部の便利な移動手段を作っていくのかについては、別の施策とも関連してくるので、今後研究していきたいと考えている。
- ・乗継について、運行事業者の方で把握していることや感じていることはあるか？

(平野副会長)

- ・バス路線の接続が悪かったから少なかったのか、根本的に需要がなかったのかは把握できていないが、肌感覚としては、乗継利用が思っていたより多くなかったと感じている。(ジェイアールバス関東も同様の見解)

(鈴木正一委員)

- ・買い物目的の利用が多いということだが、車内が狭いなという意見があった。乗りやすいバスを考えていかなければならない。利用しやすいバス、また観光面で考えれば自転車を積載できるバスなどを導入する予定などはあるのか。

(事務局)

- ・残念ながら、実証運行の段階で車両に対する投資ができないため、運行事業者が保有する車両で対応せざるを得ないところがある。本格運行が決まった際には、利用しやすい車両の導入を検討していくことになると考えている。
- ・ソフト面でバリアフリーについてカバーできないか、運行事業者とも話している。前回いただいた意見を参考に改善していければと考えている。

(鈴木正一委員)

- ・ニーズに合わせていくことが大事。全部はできないと思うが、検討いただきたい。

(佐藤委員)

- ・今回の協議事項で審議される内容について、資料2-1の運行計画では運賃が決まっていないということだが、運賃の部分も本日の審議内容に含まれるのか。

(事務局)

- ・運賃額については、この場では確定させられない。「200円を超えることはない」ということをご審議いただき、持ち帰り検討させていただきたいと考えている。

(佐藤委員)

- ・決定事項について、後日改めて協議ということではなく、報告の上委員に確認するということが。それは申請前に行うということが良いか。

(事務局)

- ・確定した内容については、できれば申請前に、速やかに委員にご報告したいと考えている。

(3) 館山市公共交通事業者支援補助金 補助事業の内容について(報告事項)

- ・「資料3」を用い、事務局から補助事業の概要や取組内容について報告した。

委員から(全体を通じてのコメント)

- ・コロナ禍で経営が悪化する中、説明があった補助事業等は事業者にとってありがたかったのではないかと思う。
- ・アフターコロナ、ポストコロナに向け利用者をどう取り戻していくか皆さんでしっかりと考え、行動する必要がある。
- ・観光需要は戻しやすい。皆、(自由に出かけられないことに対する)フラストレーションが相当たまっている。そこをうまく取り込めれば、観光客の誘致はしやすいと思っている。
- ・観光地を巡るようなツアーを設定し、公共交通を使う仕掛けを作れば良いのではないかと考える。多いのは自家用車だと思うが、車でなくても巡ることができる環境づくりが必要である。
- ・観光もそうだが、目的地が重要である。バスに乗った先で何をやるかということが大切。まちの活性化もあわせて考えないと、まちに人が出ていく/呼び込めるようにならない。
- ・地域の活性化に合わせて公共交通を利用する・充実させるという流れを作る。
- ・会議開催時の公共交通利用を呼びかけたり、バスの時刻にあわせて会議を設定するなど、きめ細かく公共交通に誘導することで少しでも利用者を増やすことができるのではないか。
- ・地域が活性化するような施策を考えてほしい。

その他

委員から以下のとおり情報提供があった。

○竜崎委員(代理:飯塚課長)(ジェイアールバス関東館山支店)

- ・当社の経営状況は厳しい。
- ・東京・新宿ゆきの高速バスなのはな号については、コロナ前の38便から22便に減便しているが、1便当たり10名ほどの乗車しかない。
- ・7月1日に、高速バスや洲の崎線等のダイヤ改正を行うべく準備している。
- ・3月から、千葉県初の自転車ラックバス運行中。サイクルツーリズムの新しい楽しみ方を提供していきたい。
- ・市街地循環バスについては、日東交通と協力し安全運行と利便性向上に努めているので、よろしく願いたい。

平野副会長（日東交通）

- ・はじめに、補助金事業の補足をさせていただく。アニメ「戦翼のシグルドリーヴァ」のキャラクターをあしらったジェイアールバス関東と共通の一日乗車券については、大変好評いただいております、これまで2社合計で120枚売れている。
- ・また、4月10日にはアニメのラッピング車両を集めてファミリーパークで展示会も開催した。
- ・観光みなど課にも協力いただき、アニメのキャラクターパネル展示も行っているところ。
- ・次に、配布した資料について説明する。
- ・日本バス協会と国土交通省が発行する資料についてだが、当社も路線バスはようやく6割~7割に戻ってきたものの、高速バスが依然半分にも満たない状況で、現在も減便中である。千葉線は通常通りのダイヤだが、今の状況が続くようだと「会社の体力を温存する」という観点から減便することも考えられる。
- ・バスは不特定多数が利用する。その不安を解消するためにバス協会や国でリーフレットを作っている。路線バス車両なら3分、貸切（高速）バス車両なら5分で換気される。
- ・次に「ミライロID」についてだが、障害者手帳の提示を利用都度求めない、負担をかけないようにするため、スマホで手帳の確認ができるシステムである。当社の一般路線バス全線で運用を開始している。
- ・最後に、路線バスで巡るショーツツアーの紹介をさせていただく。これは、市民の皆さん等に近所のスポットを見てもらい、その魅力を再発見してもらう目的で企画した。自衛隊にご協力いただき、基地内を車内から見学可能な内容としている。機会があればぜひご参加いただきたい。

篠谷委員（代理：柿原助役）(JR 東日本館山駅)

- ・3月13日にダイヤ改正を行い、新型車両導入に伴う両数変更及びワンマン運転の実施が始まった。
- ・報道等でご承知のとおり、当社も新型コロナの影響で収支がマイナス5千億と厳しい状況下にある。
- ・今後、合理化や経費節減を進めていくこととなるが、緊急事態宣言解除後（アフターコロナ・ポストコロナ）に安心して利用いただけるよう努めるとともに、利用促進を図りたいと考えている。

山田委員（代理：清水取締役）(鏡浦自動車)

- ・過日、館山警察署と館山署管内のタクシー5社が「電話 de 詐欺被害防止に関する協定」を締結した。
- ・先日、館山市内の70歳代女性がキャッシュカード等をだまし取られる事件が発生したが、館山駅からタクシーを利用したことが判明し逮捕につながった。
- ・引き続き、被害防止のため捜査に協力していく所存。

佐藤委員（国土交通省関東運輸局 千葉運輸支局）

- ・コロナ禍により、各業種とも経営が厳しいと思うが、バス・タクシーについても移動需要の低下で経営環境が厳しさを増している。
- ・国や県、地元市町村が補助や支援を行っているところだが、依然厳しい状況下にある。

- ・公共交通は皆が利用することで成り立っている。社会全体で支えていくことが必要である。
- ・各交通事業者はコロナ対策を万全に実施している。委員の皆様にもバス・タクシーの利用をお願いしたい。
- ・資料の2ページ、3ページは、どちらかという自治体へのお願いになる。冒頭の会長挨拶の中で、ワクチン接種に係る移動手段を検討していると聞いたところだが、自治体におかれてはぜひバス・タクシーの活用検討をお願いしたい。不明な点があれば支局に相談いただきたい。
- ・貸切事業も需要がなくなっており大変厳しい。移動型ワクチン接種会場として活用している事例もある。機会があればぜひ検討いただきたい。

木村委員（館山警察署）

- ・「交通混雑緩和協力依頼」のチラシをご覧いただきたい。
- ・今夏、オリパラが開催予定である。青線・緑破線はオリンピック輸送ルートとして確保する道路になる。
- ・期間中は、一般車両の利用を制限し渋滞発生を抑止したいと考えている。
- ・また、混雑時間帯を避けた利用や迂回をお願いをしたいと考えている。
- ・あわせて、都心部を避けたルート設定、休暇取得やテレワーク推進をお願いしたいと考えている。
- ・所属の従業員やその家族等にも周知をお願いしたいと考えている。

佐野委員（西岬地区区長会）

- ・西岬地区に、ジェイアールバスのショッピングライナーが走っている。おどや海岸店経由で、高齢者に喜ばれている。この場を借りて感謝する。
- ・大型バスが空気を運んでいるような状況を見ていて悲しい思いをしている。
- ・マイクロバスのような小型車両で良いのではないかと思う。
- ・小さな車両で良いので回数を増やしてほしい。
- ・高齢者の通院について、病院の混雑具合によっては時間がかかり、バスのダイヤが合わないという一日がかりになってしまうという独居老人の声も多数聞いている。
- ・車両等について、もう少し柔軟に考えることはできないか。
- ・ジェイアールバスからは、時々団体が乗る時があると聞いている。しかし、団体が乗るのは年数回ではないか？
- ・郊外からのバスの便数が増えれば、市街地循環バスに乗る人も増えるのではないかと考えている。

（ジェイアールバス関東 飯塚課長）

- ・いただいたご意見については、持ち帰り上席に報告、検討させていただきたい。

【事務局から】

- ・会議要旨についてはまとまり次第送付するので、内容確認をお願いしたい。
- ・次回会議の日時は未定。決まり次第ご連絡させていただく。

閉会